

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立長松小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを意識できるよう学習計画をしっかりと立てることで、児童が見通しをもって主体的に学習できるようになり、少しずつ成果が出てきている。明らかになった課題等については、日々の実践を通して改善し、学力向上を目指していきたい。 引き続き心の教育を充実させることで、児童が将来に希望をもち、毎日の学校生活を楽しく、安心して過ごすことができる環境を作っていきたい。 保護者や地域の方々の協力を得て、様々な取り組みや活動を実施することができた。今後も児童にとっても教職員にとっても長松小学校という場を介して、充実した生活を送ることができるようにしたい。
------------------	---

2 学校教育目標	【えがお】いっぱい 長松小 ～創立149年 まつばのひしのほこりも高く～
----------	--------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>考える力 自分の考えを伝えたり友だちの考えをわかったりすること</p> <p>心の力 人が生きる権利について考え、気づき、行動する気持ちをもつこと</p> <p>体の力 学校へ歩いて登校したり、食べ物について考えたりすること</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○指導事項や評価規準を学年グループで明確にしたうえで、単元の指導計画を作成する。	○「学習計画に沿って学習することが出来た」と「どんな力がついたのか振り返ることが出来た」と肯定的な回答をする児童80%	<ul style="list-style-type: none"> 個々の授業方向上を固めるため校内研究を充実させる 見直しを持って授業に取り組めるよう、学習計画を立てる 次の学習に活かせるように学習内容や学びを自己評価させる。(振り返り) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘し、2学期の実践について指導を受けて、授業実践に活かすことができた。 学習内容や学び方を自己評価するための書く活動に取り組んでいる。今後、振り返りの内容を真をあげていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教材を使いながら、興味を引きながら指導されている様子に感心した。 	授業研究部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優れている」と肯定的な回答をした児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 心の教育を道徳科を中心に教育活動全般で行う 人権意識の向上に向け、人権教室を実施する 保護者への啓発、理解促進のため、ふれあい道徳を実施する 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権標語や人権ポスターの取り組みにも多数参加して意識を高めた。人権教室に取り組んだこともあり、助け合いの気持ちがいふふん進んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人としての基本的な考え方、他人との関わり方をしっかりと導いてほしい。 	人権・同和教育担当 道徳担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケートで、「なかよしの友だちがいる」「学校は楽しい」と答えた児童が80%以上 ○不登校傾向児童の数を前年度より減らす。	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートを実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努める。(毎月初めに実施) 生活指導協議会で、気になる児童については、情報を共有し、担任まかせにせず学校として対応していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校と子ども家庭相談室などと連携、協力して少しずつ登校できるように対応できた。 アンケートをもとにしてクラスの中での様子を知ることができ、早期解決ができた。 	B		生活部 支援部
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「困っている時や悩んでいる時には、誰かに相談している」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童80%以上(高学年)	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や総合の時間に将来について考える時間を設定し、将来の夢や目標、なりたい人物像などを考えさせる。 地域の方や地域ボランティアの協力を得て、児童の体験活動を実施し、児童の「地域を愛する気持ち」や「地域を誇りに思う気持ち」を育成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーの協力で学校生活に不安を感じている児童に寄り添うことができた。 「地域を誇りに思う気持ち」を育てるために、さまざまな体験活動を計画し、実行した。 	B		コミュニティスクール担当 特活部
	「望ましい生活習慣の形成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童が80%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みの体育館開放による、運動遊びの推奨。 月に一度実施している「メデイアデー」の呼びかけ。 天気の良い日の、放送委員による外遊びの呼びかけ。 学期末に、クラスごとにアンケートを実施。(紙・タブレット・拳手を学年の実態に合わせて) 日々の給食指導に加え、年4回の給食週間を設け、全職員で指導を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎日のように運動場や体育館で遊ぶ児童が見られる一方で、高学年になると、運動する児童としない児童の二極化が見られる。運動できる場と機会の定期的な開放、呼びかけなど、児童の運動習慣の定着に向け取組を続けていきたい。 メデイアデーは、遠征や放送などで取組を推奨した。 給食時間や給食週間の取組を通して、食への感謝の気持ちをもたせたり、好き嫌いなく食べるように指導したりできた。給食センターの残量調べで、多いときで月に一人平均50gだったことがあった。食べ物を無駄にしない指導の必要性を感じた。 	B		保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●仕事の分業化をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 業務依頼書を作成し、教員が教員業務支援員の補助を得やすいようにする。 70%の職員が時間外在校時間の上限を超えないようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 業務依頼書を使って、教員業務支援員の補助を積極的に活用する職員も増えてきた。 時間外在校時間の上限を超えない職員が増えた。 	B		管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する研修を年3回以上行う	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する研修会の実施 ケース会議の開催 支援の必要な児童についての情報共有と支援学級担任が中心になっての具体的な支援の提供 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に次年度への引継ぎとなる研修を行い、3回の研修を実施できた。 毎月の生指協で、不登校の状況を職員で共有し、特別支援的な支援が必要な児童については、特支援担任が関わり、改善傾向の児童もいる。校内での適切な就学指導ができた。 	B		特別支援教育担当

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○長松コミュニティの推進	○地域・保護者ボランティアの増加 ○児童による地域貢献	○地域の行事やボランティア活動に連れて参加する児童を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ連携を地域の回復で図ったり、HPに掲載したりして、地域と共に活動する輪を広げる。 地域行事への参加啓発や定期的に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月コミュニティ通信を発行し、地域の方々にも学校の様々な取り組みを理解してもらうことができた。 自ら進んでよい行いをする児童が見られ、地域の方からお褒めの言葉をいただくこともあった。校内放送でも全校児童に紹介した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方を巻き込みながら地道に続けていくことが大切。 あいざつ運動に力を入れたい。 	コミュニティスクール担当

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学び全体の見直しをもち、振り返りを充実させることで、主体的な学びにつながる。引き続き、研究を充実・継続させ、学力向上に努めていきたい。 児童の気持ちによりそい、家庭やスクールカウンセラー、各相談機関とも連携しながら、心の教育の充実や教育相談体制の充実にも努めていきたい。 「創立150周年」を合言葉とし、コミュニティスクールとして、地域や保護者の方々の協力を得ながら、長松小学校の様子を積極的に伝え、子供達が充実した学校生活を送ることができるようにしていきたい。
----------------	---